学生論文

中学生が求める理想の教師像

丸　山　　遊（指導教員　浅原知恵）

要　旨

本研究は，４点の調査研究のメタ分析を通して，中学生にとっての理想の教師像を具体的，包括的に描き出すことを目的とした。対象とした各文献の調査の結果得られた項目を一覧にした後，質的研究の手続きにしたがって，カテゴリ化を行った。最終的に，「学級運営力」，「授業の技能」，「性格特性」，「コミュニケーションの技能」，「生徒への働きかけ」の５つの大カテゴリを生成した。結果から，生徒のことを考えられることが，理想の教師の中心的な要素である可能性が示唆された。また，教師としての技術力と知識，他者とのコミュニケーション能力があること，さらに，時に矛盾を含む種々の性格特性を備え，それらを時と場合に応じて，演じ分ける能力をもつことが，中学生が求める理想の教師像であることが示された。

キーワード：中学生，理想の教師，メタ分析

１．問題と目的

近年，教師による不祥事での懲戒免職が増加している。埼玉県教育委員会によれば，平成28年度の懲戒免職数が過去10年で最多である。懲戒免職の理由は，教師による生徒へのわいせつ行為，体罰，飲酒運転などの法律違反である。このような教師が，子どもから大人へと移行する多感な時期の中学生と日常生活を共にすれば，彼らに好ましくない影響を及ぼすことは避けられないであろう。

中学生にとって教師は，授業，学級担任，生徒指導，部活動，生徒会活動など学校生活における様々な場面で関わる最も身近な大人である。大人へと成長する過程で，生徒たちは，周囲の大人たちに，モデルとしての役割を期待し，良くも悪くもその言動の影響を受けると考えられる。前述のような行動をする教師が生徒にとって理想の教師像であるとは考えにくい。

それでは，どのような教師像が生徒にとって理想であるのだろうか。小柴（2014）は，中学生と高校生を協力者とする調査から，「中高生が求める理想の教師」とは，わかりやすい授業をし，生徒とのコミュニケーションを上手に行うことができ，クラスをまとめることができる教師であることを示した。また原田（2005）は，中学生を対象に行った調査から，「中学生が指導を受け容れることができるとみなす教師像とは，生徒を受容し，生徒理解ができ，生徒に誠実な対応をし，公平，平等である先生だとしている。さらに陳（2007）が中国の中学生に対して行った調査によると，熱心に教えてくれる先生，教え方が上手な先生，専門知識が豊かな先生が，理想の教師像として挙げられている。以上の研究では，授業，クラスなどの場面において生徒が嫌悪感をもたないような行動をしている教師が，生徒にとっての理想とみなされていると言えよう。一方，豊（2000）は，大学生を対象に「好かれる教師像と嫌われる教師像」について調査した結果，前述の研究と同様

に，熱心に授業をしてくれた先生，生徒への理解があった先生，親しみやすい先生などが好かれていた半面，厳しい指導をした，怖い先生，体罰を行う，殴った，など，生徒が嫌悪感，恐怖感をもつような先生も好かれる教師像として示され，先の研究とは矛盾する知見が見出された。

このように，理想の教師像については，中学生，高校生，大学生を対象とした複数の研究が報告されているが，その結果は必ずしも一貫していない。そこで本研究では，理想の教師像，生徒に好かれる教師像に関する文献のメタ分析を行う。それらを通して，学生が求める理想の教師像を明らかにすることが本研究の目的である。

２．方法

２．１　対象とした文献

本研究は，中学生にとって理想の教師像を明らかにするのが目的である。この教師像を明らかにするには，現役の中学生を対象とする調査や，中学生の頃に理想の教師像についてどう考えていたか高校生，大学生に尋ねた調査を対象とする必要がある。そこで，先行研究の中から，中学生を対象とした調査研究３点，大学生を対象とした調査研究１点，計４点を対象文献として選定した。

対象とした４つの文献における調査の協力者は，「中高生が求める理想の教師像」（小柴，2014）では中高生2,164名，「中学生が指導を受け容れることが出来るとみなす教師像について」（原田，2005）では中学生279名，「中国における中学生の教師認知」（陳，2007）では中学生333名，「好かれる教師像と嫌われる教師像」（豊田，2000）では大学生142名であった。

２．２　分析方法

各対象文献の調査結果を，一覧表にした後，浅原ら（2017）の分析方法を参照し，以下の手続きにしたがって分析した。

１）一覧表の各項目を吟味し，それぞれの意味を表す短文を書き出し，概念ラベルを作成した。

２）教職課程担当の指導教員の協力を得ながら，概念ラベルの共通点と差異を繰り返し検討し，類似点のある概念ラベルを集めて，小カテゴリを作成・命名した。さらに，それらの関係を検討して，中カテゴリを作成・命名，続いて，中カテゴリ間の関係を検討して，大カテゴリを作成・命名した。１つの概念ラベルを同時に複数の小カテゴリに分類する場合もあった。

以上の概念化，カテゴリ化の過程では，生徒が考える教師像を具体的，客観的にイメージできる項目のみを採用した。たとえば，対象文献における調査結果の項目には，「成績が上がった」のような生徒の感想が含まれる場合があった。しかしながら，「成績が上がった」との内容は，具体的な教師像を指し示してはいない。したがって，このような生徒の感想などについては，概念ラベル化をしないこととした。

３．結果

計105枚の概念ラベルに対するカテゴリ化の結果，77の小カテゴリ，23の中，５の大カテゴリが得られた。理想の教師像に関するカテゴリの一覧を表１に示した。以下の文中の（　）内は該当するカテゴリ番号である。例えば（大１）は，大カテゴリの１番を指す。

３．１　学級運営力（大１，中１－２）

「学級運営力」（大１）は，学級をまとめる「統率力」（中１）と見通しをもって学級に関わる計画力（中２）に関する項目から生成された。「クラスをまとめることができる」（小１），「魅力的な学級，学年，行事を計画することができる」（小４）などが含まれる。

表１　理想の教師像のカテゴリ

大カテゴリ	中カテゴリ	小カテゴリ
1 学級運営力	1 統率力	1 クラスをまとめることができる
		2 どの生徒にも公平に仕事をさせる
	2 計画力	3 生徒によってよい授業や学級部活づくりをしようとしている
		4 魅力的な学級，学年，行事を計画することができる
2 授業の技能	3 授業を工夫している	5 勉強を図や例を使い,わかりやすい言葉で興味深く教えてくれる
		6 板書がわかりやすい
		7 教科書以外の資料を使う
		8 発表形式の授業をする
		9 授業で具体的な例を示す
	4 説話技術がある	10 授業を詳しく丁寧にする
		11 説明がわかりやすい
		12 授業がうまい
		13 知識は深くないが上手にわかりやすくする
	5 授業に対する熱意・意欲がある	14 授業に全力で取り組む
		15 教育にかかわる信念をもっている
		16 教材や指導法の研究など自ら学ぶ意欲を持つ
		17 授業を熱心にしてくれる
		18 社会の変化に伴う教育課題に対応できる
		19 わかるまで教えてくれる
3 性格特性	6 明るい	20 誰に対しても明るく笑顔でかかわる
		21 普段からユーモアがあり，明るく優しい
		22 明るい
	7 面白い	21 普段からユーモアがあり，明るく優しい
		23 おもしろい
		24 雑談が面白い
	8 おおらか	25 生徒がひょうきんなことをいったら，喜んでくれる
		26 物事の善悪を割り切ってしまわない
	9 知性がある	27 豊かな教養を備えている
		28 専門的な知識や技能が優れている
		29 知識が豊富である
		30 スマートである
	10 厳格である	31 説教をする
		32 怒鳴る
		33 厳しい指導をする
		34 こわい
		35 殴る
		36 体罰を与える
		37 物事の善悪をはっきりさせる
	11 礼儀正しい	38 礼儀正しい
	12 一貫性がある	39 自分勝手に物事を決めず，生徒が納得するような決定をする
		40 言動に矛盾したところがない
		41 注意するときは，そのわけをしっかりと説明してくれる
		42 しかる理由が納得のいくように教えてくれる
	13 規律を遵守する	43 授業を時間通りにきちんとする
		37 物事の善悪をはっきりさせる
	14 身だしなみ・外見がよい	44 身だしなみがよく，外見がよい
		45 顔立ち，スタイルがかっこいい
		46 自分の服装や身なりをきちんとしている
	15 信頼性がある	47 信頼できる
	16 謙虚である	48 だれからも学ぼうとする謙虚さを持つ

大カテゴリ	中カテゴリ	小カテゴリ
4 コミュニケーションの技能	17 生徒と親しくつきあう	49 生徒とのコミュニケーションを上手に取ることができる
		50 しつこくなく，さっぱりしていて気軽に話すことができる
		51 親しみが持てる
		52 気軽に付き合える
		53 生徒と遊んでくれる
		20 誰に対しても明るく笑顔でかかわる
		25 生徒がひょうきんなことをいったら，喜んでくれる
	18 教育関係者と連携できる	54 教職員と協力することができる
		55 保護者と連携することができる
		56 教職員と積極的に意見交換する
		57 地域と連携することができる
		20 誰に対しても明るく笑顔でかかわる
5 生徒への働きかけ	19 親身になってくれる	58 生徒の立場を理解して真剣に話を聞いてくれる
		59 思いやりがある
		60 温かい
		61 やさしい
		62 自分から進んで，丁寧に世話をする
		63 もう大丈夫かと声をかけてくれる
		64 進路相談に乗ってくれる
		65 個人的な指導をしてくれる
		66 進路，教科外の相談にのってくれる
	20 生徒を尊重してくれる	58 生徒の立場を理解して真剣に話を聞いてくれる
		67 生徒への理解がある
		68 生徒を尊重する
		69 生徒を見かけで判断せず，公平に接する
		70 自分勝手に物事を決めず，生徒が納得するような決定をする
	21 生徒の成長を促そうとする	71 生徒の成長に喜びを感じる
		72 自分のもつ力を発揮させてくれる
		73 物事に対する興味関心を引き出してくれる
		74 生徒のためになることを選んで話してくれる
	22 生徒の良さを認めてくれる	75 決められたことをきちんとやると，ほめてくれる
	23 対等に接してくれる	76 生徒と対等に付き合ってくれる
		53 生徒と遊んでくれる
		77 皆と一緒に掃除してくれる

３．２　授業の技能（大２，中３－５）

「授業の技能」（大２）は，授業のうまさや，授業に対する積極的な関わりに関するカテゴリで，授業のわかりやすさに関する「授業を工夫している」（中３），話のうまさに関わる「説話技術がある」（中４），授業への積極的な関与に関する「授業に対する熱意・意欲がある」（中５）の３つの中カテゴリから生成された。「勉強を図や例を使い，わかりやすい言葉で興味深く教えてくれる」（小５），授業を詳しく丁寧にする（小10）や「説明がわかりやすい」（小11），「授業に全力で取り組む」（小14）や「授業を熱心にしてくれる」（小17）などから生成された。

３．３　性格特性（大３，中６－16）

理想の教師の人柄に言及したラベルから，10の中カテゴリが生成され，「性格特性」（大３）を構成した。最も項目数，小・中カテゴリ数が多い大カテゴリであった。「普段からユーモアがあり，明るく優しい」（小21）は，「明るい」（中６），「面白い」（中７）に共通すると考えられたため，２つのカテゴリに含めた。「明るい」（中６）には，

「誰に対しても明るく笑顔でかかわる」(小20),「面白い」(中７）には,「雑談が面白い」(小24)などが含まれる。「おおらか」(中８）は「生徒がひょうきんなことをいったら，喜んでくれる」(小25）などから生成された。「知性がある」(中９）は,「豊かな教養を備えている」(小27）や「知識が豊富である」(小29）などから生成された。「厳格である」(中10）は,「厳しい指導をする」(小33),「こわい」(小34）など，７つの小カテゴリから生成された。この中カテゴリではおおらか（中８）に含まれていた「物事の善悪を割り切ってしまわない先生」(小26）と反対の「物事の善悪をはっきりさせる先生」(小37）が含まれていた。「一貫性がある」(中12),「言動に矛盾したところがない」(小40）など,「規律を順守する」(中13）は,「授業時間を時間通りにきちんとする先生」など,「身だしなみ・外見がよい」(中14）は,「身だしなみがよく，外見がよい」(小44),「顔立ち，スタイルがかっこよかった」(小45）などから生成された。そして,「礼儀正しい」(中11),「信頼性がある」(中15),「謙虚である」(中16）は，それぞれ「礼儀正しい」(小38),「信頼できる」(小47),「だれからも学ぼうとする謙虚さを持つ」(小48）の項目から生成された。

３．４　コミュニケーションの技能(大４,中17－18)

「コミュニケーションの技能」は，生徒や関係者とうまく関わることのできる技能に関する項目から生成された。生徒とのコミュニケーションに関する「生徒と親しくつきあう」(中17）には,「生徒とのコミュニケーションを上手にとることができる」(小49）や「しつこくなく，さっぱりしていて気軽に話すことができる」(小50),生徒と遊んでくれる」(小53）などが含まれ,「教育関係者と連携できる」(中18）には,「教職員と協力することができる」(小54),「保護者と連携することができる」(小55）などが含まれる。

３．５　生徒への働きかけ（大５，中19－23）

「生徒への働きかけ」(大５）は，生徒に対する教師の関わり方に関する項目から生成された。「生徒の立場を理解して真剣に話を聞いてくれる」(小58）は,「親身になってくれる」(中19）と,「生徒を尊重してくれる」(中20）の両方の側面が含まれると考えられたため，同時に２つの中カテゴリに含めた。「親身になってくれる」(中19）は，全体を通して最も小カテゴリ数が多かった中カテゴリで,「生徒の立場を理解して真剣に話を聞いてくれる」(小58）や,「思いやりがあった」(小59),「やさしかった」(小61）などから生成された。「生徒を尊重してくれる」(中20）は,「生徒の立場を理解して真剣に話を聞いてくれる」(小58),「自分勝手に物事を決めず，生徒が納得するような決定をする」(小70）などから生成された。「生徒の成長を促そうとする」(中21）は,「生徒の成長に喜びを感じる」(小71),「生徒のためになることを選んで話してくれる」(小74）などから生成された。「生徒の良さを認めてくれる」(中22）は「決められたことをきちんとやると，褒めてくれる」(小75）から生成され,「対等に接してくれる」(中23）は「生徒と対等に付き合ってくれた」(小76),「皆と一緒に掃除をしてくれる」(小77）などから生成された。

全カテゴリを見渡すと,「性格特性」(大３）と「生徒への働きかけ」(大５）を構成する項目が多かった。

４．考察

理想の教師像についてのカテゴリ化を行った結果，理想の教師像に関する様々な要素が見出された。以下の考察では，まず，今回の研究の結果から教師像について，先行研究と対比させながら検討する。次に，カテゴリ化の結果見出された，矛盾する内容のカテゴリについて，考察する。

４．１　中学生にとっての理想の教師像とは

分析結果から，理想の教師像として，学級経営力（大１），授業の技能（大２），生徒や教育関係者とのコミュニケーションの技能（大４），生徒への働きかけ（大５）に関する様々な要素が示された。学級経営や授業の技能が重要であることは，これまでの研究でも指摘されてきたが（小柴ら，2014；原田ら，2005；陳，2007），それら研究では，それぞれのカテゴリの具体的内容については示されていなかった。本研究を通して，理想の教師像について，より具体的な内容が明らかになったと言えよう。

４．１．１　学級運営力について

学級運営力（大１）として，統率力（中１）と計画力（中２）の２つの中カテゴリが見いだされた。「生徒にとってよい授業や学級部活づくりをしようとしている」（小３），「魅力的な学級，学年，行事を計画することができる」（小４）という結果から，生徒たちは教師に対し，単にある時点で「クラスをまとめることが出来る」（小１）力だけでなく，今後に向けて学級を導いていく計画力を求めていると言えるだろう。

４．１．２　授業の技能について

次に，「授業の技能」（大２）についてみると生徒たちは，「勉強を図や例を使い，わかりやすい言葉で興味深く教えてくれる」（小５），「説明がわかりやすい」（小11）といった技術面だけではなく，「授業に全力で取り組む」（小14），「授業を熱心にしてくれる」（小17）のように，熱心で意欲的な教師を望ましいと考えていることが明らかになった。授業には，教える技術だけではなく，気持ちの面での思い入れが必要であり，それがなければ，生徒に配慮した対話的授業は困難であろう。生徒の側もそのことを知っており，だからこそ，教える技術だけではなく，熱意や意欲のある教師を求めていると言えよう。

４．１．３　性格特性について

「性格特性」（大３）については，「明るい」（中６），「面白い」（中７），「おおらか」（中８），「知性がある」（中９），「厳格である」（中10），「礼儀正しい」（中11），「一貫性がある」（中12），「規律を順守する」（中13），「身だしなみ・外見がよい」（中14），「信頼性がある」（中15），「謙虚である」（中16）が，望ましい特性として示された。これらの多くは，教師に限らず一般に望ましいとされている特性だと考えられる。ただ，「知性がある」（中９），「厳格である」（中10），「規律を順守する」（中13）は，一般の大人と比べ，知的職業で，指導的な立場にある教師に特徴的な理想像である可能性もあるだろう。

ところで，これら11の性格特性の内容を見ると，たとえば「おおらか」（中８）と「厳格である」（中11）のように，相互に矛盾する内容が含まれている。この点については，次節（４．２）において考察する。

４．１．４　コミュニケーションの技能について

コミュニケーションの技能に関しては，「生徒と親しくつきあう」（中17）に含まれる項目中に，「しつこくなく，さっぱりしていて気軽に話すことができる」（小50），「気軽に付き合える」（小52），「生徒がひょうきんなことをいったら，喜んでくれる」（小25）があることから，生徒は理想の教師像として，気軽さを求めていることが示唆されている。中学生は多感な時期で，悩みなどを抱えている。気軽に話しかけることができる先生がいることで悩みなどを相談することができる。さらに，中学生は時として教師に対し，失礼な態度を取ることがある。それに対して，教師が気軽に受け流してくれる，明るくとらえてくれる存在であれば生徒はコミュニケーションを取りやすいだろう。そうした理由から，生徒は教師に対して，気軽さを求めていると考えられる。さらに，「親しみが持てる」（小51），「生徒と遊んでくれる」（小53）から，生徒は友人同士のようなコミ

ュニケーションを求めていることがうかがえる。このことからも，生徒たちは，教師が生徒に対して，気軽に，友人のように対等に近いコミュニケーションを取ることを期待している面があると言えよう。

一方，もう一つの中カテゴリである「教育関係者と連携できる」(中18) から，生徒は生徒だけではなく，自身を取り巻く人々ともコミュニケーションを上手にとれることを求めていることが示された。自分たちが安心して学校生活を過ごせるためには，教師が他の教職員や保護者とも良好な関係を築けることが必要だと感じていることを示唆していよう。

4．1．5　生徒への働きかけについて

「生徒への働きかけ」(大５) の中で，特に項目数の多かった３つの中カテゴリ（「親身になってくれる」(中19)，「生徒を尊重してくれる」(中20)，「生徒の成長を促そうとする」(中21)）を見ると，子どもたちが教師に求める働きかけの中心的な要素は，「生徒のためを思うこと」にあり，「生徒思いの教師」であることを，理想の教師像にとって重要な部分とみなしていることがうかがえる。その具体的なものとして，「生徒の立場を理解して真剣に話を聞いてくれる」(小58)，「生徒への理解がある」(小67) のように，まず生徒に理解を示すことが求められている。さらに「生徒を見かけで判断せず，公平に接する」(小69)，「自分勝手に物事を決めず，生徒が納得するような決定をする」(小70) からは，生徒を下に見ず，生徒の立場や意見を尊重する姿勢が求められていることがわかる。生徒を大切にし，子どもに対しても敬意をもって接する姿が望ましいとされていると言えよう。

以上の考察から，理想の教師の具体的な姿を明らかにすることが出来た。学級運営では，クラスをまとめることだけではなく，生徒を楽しませる計画力が必要である。授業における教師像として，技術面だけでなく，教師の授業に対する態度も求められている。コミュニケーションでは，気軽に話しかけることができ，友人に近い関係を生徒と築くことが生徒にとっては理想である。そして生徒への働きかけでは，生徒を理解，尊重し，生徒のためを思う教師が理想とされた。これらのことから，理想の教師像の前提には，生徒のことを考えることができるという特徴があると推察できる。

４．２　理想の教師像における矛盾について

先述したように，理想とする教師の「性格特性」(大３) には，矛盾した内容が含まれていた。本節では，そのような矛盾について検討する。

4．2．1　善悪をはっきりさせることと割り切らないこと

「おおらか」(中８) と「厳格である」(中11) は言葉の上では対極的なカテゴリである。小カテゴリレベルで見ると，特に「物事の善悪を割り切ってしまわない」(小26) と「物事の善悪をはっきりさせる」(小37) は，明らかに矛盾している。

しかし，これらはそれぞれ，異なる場面を想定した理想像だと考えることもできる。たとえば，努力したにもかかわらず，テストの結果が目標を下回り，落ち込んでいる時などは，「良くなかった」，「努力が足りなかった」と断じるのではなく，「ここの部分はよくできた」と，「おおらか」に接し，できたことを認めてくれる教師を求めるのではないだろうか。たとえば生徒がいじめを受けており，加害者に対して，しっかりと指導をしてほしいと考えるような場合は，「物事の善悪をはっきりさせる」先生を求めると考えられる。いじめは学校生活に好ましくはないものであり，このような場面で「物事の善悪を割り切ってしまわない」先生は求められないだろう。

4．2．2　やさしさと厳しさ・こわさ

次に「やさしい」(小61) と「厳しい指導をする」(小33),「こわい」(小34) の矛盾についてである。「やさしい」(小61) は，生徒を傷つけない寛容な働きかけであると考えられるが,「厳しい指導をする」(小33),「こわい」(小34) は，生徒を傷つける可能性がある接し方である。内容的に矛盾しているが，これらも，理想の教師像として共存しうると考えられる。たとえば，非行に走った生徒を更生させるべく働きかける場合，やってはいけない行為には厳しい指導を行う必要がある。生徒自身にとっても，自らが行った行為の善悪を認識する機会になるであろう。この時，教師が厳しさを欠いた指導を行えば，生徒の更生の機会を逸することになりかねない。しかし同時に，その生徒に対し，なぜ非行に走ってしまったのかと，行為の背景にある心情に耳を傾け，理解しようとする姿勢も必要であり，それがやさしさであると言えるだろう。これは「生徒の立場を理解して真剣に話を聞いてくれる」(小58) に近い態度であり，生徒指導においては，やさしさと厳しい指導は共存しうる理想の教師像であると考えられる。ただ,「殴る」(小35),「体罰を与える」(小36) のように，今日の教育では禁止されている行為が，望ましい教師像で挙げられている。これは，昭和的な指導方法が良いと思う生徒や，体罰を受けることに，何らかの肯定的な意味を見出している生徒が存在している可能性を示唆している。

４．２．３　知識の豊富さと教え方のうまさ

もう一点,「知識は深くないが上手にわかりやすくする」(小13) と,「知識が豊富である」(小29),「専門的な知識や技能が優れている」(小28) も，矛盾する教師像として指摘できる。教師として，知識や技能は，多く深く備えていることが望ましく，それらを欠いた教師は，教える側なのに教えられている（間違いを指摘されている）ことに対して,「先生のくせに知らない」という感情（吉田，2017）を持たれかねない。また現実には，わかりやすい上手な授業は，豊富な知識に裏打ちされて成り立つもので,「知識は深くないが，上手にわかりやすくする」ことができるとは考えにくい。恐らく，教師の備えている深い知識は，外からは見えにくいために，最低限の知識を備えてさえいれば，あとは教え方がうまければよいと考える生徒がいるものと考えられる。

以上の考察では，相互に矛盾する内容のカテゴリについて考察し，一見矛盾している教師像であっても，時と場合によって，望ましい教師像が異なると考えることで，両立しうることを論じた。換言すれば，教師自身が，状況に応じ，それらの矛盾する教師像を演じ分けることが求められているとも言えよう。それが可能となるためには，教師は，生徒の感情，行動をよく観察し，その場面に合った対応をすることが求められるだろう。また，体罰について触れた通り，生徒は個々に違う対応を求めていることがあり，それが，一般的に間違っていたとしても，ある生徒にとっては理想である可能性が示唆されている。とすれば，教師の務めは，多様な生徒の抱く理想像に合わせようとすることではなく，そうした理想像の個人差をふまえつつ，その都度，教師として適切だと考える接し方を選択していくことだと言えよう。

５．結論と今後の課題

５．１　中学生が求める理想の教師像

本研究は，中学生にとっての理想の教師像を明らかにすることを目的とした。「学級運営力」(大１）に含まれる「計画力」(中２）や,「生徒への働きかけ」(大５）などの考察から，生徒のことを考えられることが，理想の教師の中心的な要素である可能性が示唆された。それに付属する形で，教師としての技術力と他者とのコミュニケー

ション能力，さらに，知識，そして，種々の好ましい性格特性を備え，それらを時と場合に応じて，演じ分ける能力をもつ教師が，中学生が求める理想の教師であることが示された。

５．２　今後の課題

本研究では，中学生の理想の教師像を明らかにすることが目的であった。本研究では検討しなかったが，理想の教師像には，性差が見られることが予想される。今後の課題としたい。また，理想の教師像を構成する諸要素の間での重みづけの違いについても，今後の研究を通して明らかになることを期待したい。

浅原知恵・渡邉美加・高梨利恵子・橋本貴裕（2017）「心理臨床の目指すところ：熟練臨床家による語りの質的分析」『心理臨床学研究』，35, 479－490.

小柴孝子・武田明典・村瀬公胤（2014）.「中・高生が求める理想の教師像：「教職実践演習」カリキュラム開発のために」『神田外語大学紀要』，26, 489－569.

原田唯司・刑部吏（2005）「中学生が指導を受け容れることができると見なす教師像について：生徒はどのような特徴を持つ教師像を望んでいるか」『静岡大学教育実践総合センター紀要』，11, 87－98.

豊田弘司（2000）.「好かれる教師像と嫌われる教師像」『奈良教育大学教育研究所紀要』，36, 65－71.

陳秀珍（2007）『中国における中学生の教師認知：好きな教師像を中心として』三重大学

吉田道雄（2017）「教育実習生に対する中学生の期待」『熊本大学教育実践研究』，34, 61－65.